

**【短報】 沖縄島でケナシツヤヒラタゴミムシを採集**

ケナシツヤヒラタゴミムシ *Nipponosynuchus abnormalis* Morita, 1998 は鹿児島県奄美大島で採集された2個体により記載された種であるが、その後も追加報告が見られず少ない種のようなのである。筆者らは下記のように沖縄島において採集したので、新記録として報告しておく。また冬期の夜間に活動しているのを観察したので写真で紹介する。

1♀, 沖縄県国頭郡東村高江, 26. XII. 2012, 宮城秋乃 (採集・撮影)。

Morita (1998) によると、本種のタイプ標本は2雌で湯湾岳 (28. XII. 1982) と油井岳 (30. X. 1996) 産で、体長は 14.3–14.4 mm。また森氏 (私信) によると湯湾岳の標本 (6–11. XI. 2001) が氏の手許に1個体ありこれも雌で、さらに大型で 18 mm である。今回採集した個体は同じ雌であるが体長は 14 mm と小さく、奄美大島産とやや異なる部分もある。原記載論文との照合、および森氏に依頼した氏の手許の標本との比較では、一応この種に同定できたが、沖縄島の個体が1個体にすぎず、いずれも♀である。種について今後の研究が期待される。

生態は殆ど不明であるが、今回の採集は12月下旬で、奄美大島の3個体も10月末から12月末であり、成虫は晩秋から冬期に活動するものと思われる。さらに今回の観察は夜間 (21時頃) に森林内の樹幹 (樹種不明) 1 m 程の高さの所を歩行していたもので (図1), 気温の低い真冬の夜間に活動しているようである。

この採集地付近は、米軍輸送機オスプレイの着陸帯として工事が進められつつある地域である。工事と大型機発着により、沖縄島ではこの地域だけにしか記録のない本種の生息環境の破壊が心配される。

報告にあたり、同定と文献の紹介で森正人氏にお世話になった。また種名に関して堀繁久氏にご

指摘いただいたことを記して両氏に厚くお礼申し上げる。

## 引用文献

Morita, S., 1998. A new genus and species of platynine carabid beetle from Southwest Japan. *Elytra*, 26 (1): 75–79.

(宮城秋乃 900-0032 那覇市松山 2-2-13

日産商事ビル 1F MEB155)

(楠井善久 903-0805 那覇市首里鳥堀町 4-123-1

東苑荘 1-E)

**【短報】 リュウキュウカワツブゴミムシ沖縄島における記録と真冬の活動について**

リュウキュウカワツブ (アトキリ) ゴミムシ *Amphimenes ryukyuensis* Habu, 1964 は沖縄生物学会 (2002) によると奄美大島、徳之島、石垣島、西表島、尖閣諸島北小島から記録され、琉球列島に広く分布する種のようなのであるが、なぜか列島の中心に位置する沖縄島からの記録は知られていなかった。近年、初宿 (2012) により 1973 年に Yonaha で採



図1. 立ち枯れの樹幹にいるリュウキュウカワツブゴミムシ。



図1. 夜間に樹皮上を歩くケナシツヤヒラタゴミムシ。



図2. 樹皮上で交尾するリュウキュウカワツブゴミムシ。